

《編集者への手紙》  
LETTERS TO EDITOR

21巻11号 〈ノート〉 1527-1530頁  
「腎 RN アンジオグラフィで描出された腎癌とその骨転移の一例」  
に対しての意見, 追加報告

池田 滋\* 石橋 晃\*

Shigeru IKEDA and Akira ISHIBASHI

Department of Urology, School of Medicine, Kitasato University, Sagamihara

21巻11号に掲載された平方先生の腎 RN アンジオグラフィで描出された腎癌とその骨転移の一例, たいへん興味深く読ませていただきました。われわれは  $^{99m}\text{Tc-DTPA}$  を用いた腎シンチグラフィにて同様に転移巣が描出された一例を経験しておりますので, 追加報告をさせていただきます。

症例は57歳男性, 右腎癌, 手術不能例のため embolization が施行されましたが, 完全閉塞には到らなかった例です。  $^{99m}\text{Tc-DTPA}$  5 mCi 投与による腎シンチグラフィー血流相において下腹部に

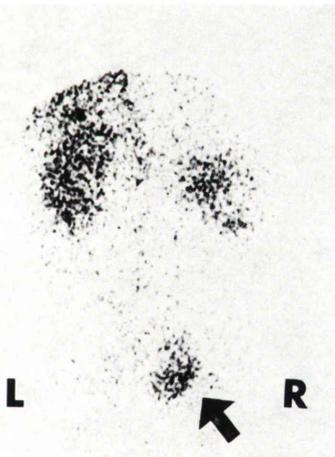


Fig. 1 The renal perfusion study taken 6-9 seconds after injection of 5 mCi of Tc-99m-DTPA. Arrow marks abnormal accumulation in the area of lower abdomen.

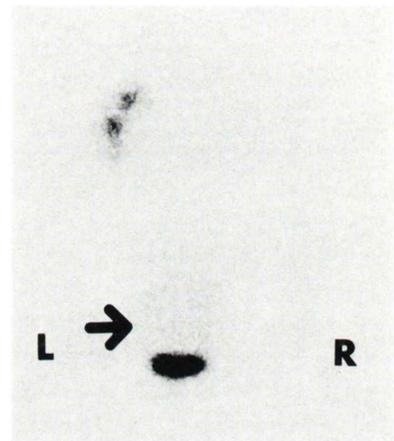


Fig. 2 Scan taken 13-14 minutes after injection of 5 mCi of Tc-99m-DTPA. The pooling of radio-nuclide is showed in the upside of bladder (arrow).

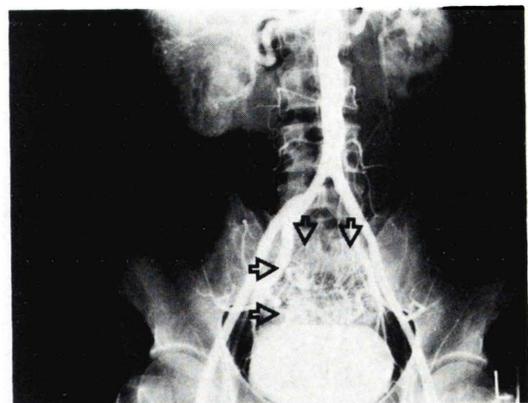


Fig. 3 The abdominal aortogram shows the abnormal vascularity of metastatic lesion (arrow).

\* 北里大学医学部泌尿器科  
受付: 59年12月19日

異常集積が明確に描出され、排泄相において RI のプーリングを思わせる所見がみられます (Figs. 1, 2). 血管造影で, hypervascular な転移巣が認められました (Fig. 3).

本例は embolization 後のため原発巣については画像上明らかではありませんが,  $^{99m}\text{Tc-DTPA}$

を用いた腎シンチグラフィーにおいて, hyper-vascularity を伴った転移巣がきわめて明確に描出できた一例として追加報告させていただきます.

本内容は第17回日本核医学会関東甲信越地方会にて報告した一部である.